

卒業後3年次アンケート（2022年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業後3年日の方を対象に、本学部・研究科を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2023年1月10日～1月31日

【実施方法】

連絡先メールアドレスが判明している2019年度卒業生116名に依頼状を送信し、京都大学学外アンケートシステムにて回答を依頼した。卒業生からの回答数は26で、回答率は22.4%で、昨年度（回答数42、回答率31.8%）に比べて、回答数、回答率ともに減少した。

【結果の概評】

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）では、回答率の高かった順に「一般的な教養や知識」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「社会的な常識」「自学自習の姿勢」「外国語の能力」が選択され、上位を占めた。前年度同様、「一般教養」は上位に入っているが、「問題発見・解決力」への回答率が約2倍になったことは注目すべき点であろう。逆に「専門的な知識と技術」への回答率は下がっている。今後の動向を見守る必要があるだろう。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計でおよそ92%となった。これは前年度をやや上回る数値であり、文学部の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

【自由記述欄】

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。」

昨年度と同じく、研究テーマを自由に決定できること、興味の赴くままに主体的に学ぶことができるなど、文学部の自主性を尊重する学風を評価した意見が圧倒的に多かった。また充実した学習環境（貴重な文献へのアクセス、教員・友人からの良き刺激）、専門知識への関心の広がり、自由放任的文化への評価も目立っていた。いずれも文学部の教育の特色を反映しているものと考えられる。以下、その特徴を示す回答を列挙する。

- ・自主的に自由に学習できるところ。貴重な資料・史料で学べるところ。
- ・各自が思い思いに自らの興味関心を深めており、競争を促されることなくマイペースに学問に取り組める点。
- ・課題設定、リサーチ、仮説立証までを主体的にできる点。
- ・何でも研究対象となり、周りもそれを否定しなかったところ。研究したいという意志があれば深められる環境が整っていたところ。
- ・社会学専攻だったため、社会で問題になっていることをあらかじめ知れたことはアドバンテージになっている。また、情報を探し、考察し、自分なりの考えをまとめるスキルは、広報企画職[に]携わっている今、直接生かされていると感じる。
- ・自身が所属していた地理学専修は自学精神（悪く言えば放置）が浸透していたため、自身で計画を立てて物事を進める能力が大分身に付いた。これからも変わってほしくないと思う。
- ・日本トップクラスの先生方に学び、志ある友人に囲まれていたのだなということを、卒業後に深く実感しています。文学部にはさまざまな専門分野があり、所属ゼミ以外の授業を受けることができ、関心の幅を広げることができたのもよかった。

Q.5「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

例年と同じく、自主性を尊重する学風のマイナス面に関する指摘がなされたほか、学生サポートが手薄だという批判、予算不足の指摘、他専修の学生との交流の欠如、あるいは同期・先輩・教授との交流の欠如をうったえる意見、必読書提示の提案、電子データ版卒業論文を提出するという提案、産学連携やアクティブラーニングが不十分だとする意見、あるいは習得内容をモニタリングするシステム導入の提案などが見られた。以下、全回答を示す。

- ・学生へのサポートが薄い。
- ・分野ごとに必読書といえる書籍があると思われるが、こうした書籍に触れる機会や働きかけが増えるとさらに実りのある学生生活になるかと思う。
- ・卒業論文を電子データで提出できるようにするべきだ。
- ・他専修の学生ともっと交流できると、新たな視点をより得られたのではないかと思います。
- ・パワーハラ体質の教員が専修にいたこと。
- ・予算がない点
- ・縦の繋がりがほとんど皆無で、先生も忙しくなかなかアドバイスなどをもらえなかった点。尤もこれは、どの学部でもそうなのかもしれない。
- ・取り立てて思い出せないため、恐らく満足行く環境だったのだろうと思う。

- ・産学連携や、アクティブラーニングの少ない点。
- ・同期や先輩、教授と交流する機会が少なかったこと
- ・もう少し習得内容をモニタリングしてくれるシステムがあるとよかった。

アンケート名 2022年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

対象者数 116

回答者数 26

回答率 22.4

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻) (3票/11.5%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系) (1票/3.8%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系) (3票/11.5%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻) (5票/19.2%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻) (10票/38.5%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻) (4票/15.4%)
- G: 無回答 (0票/0%)



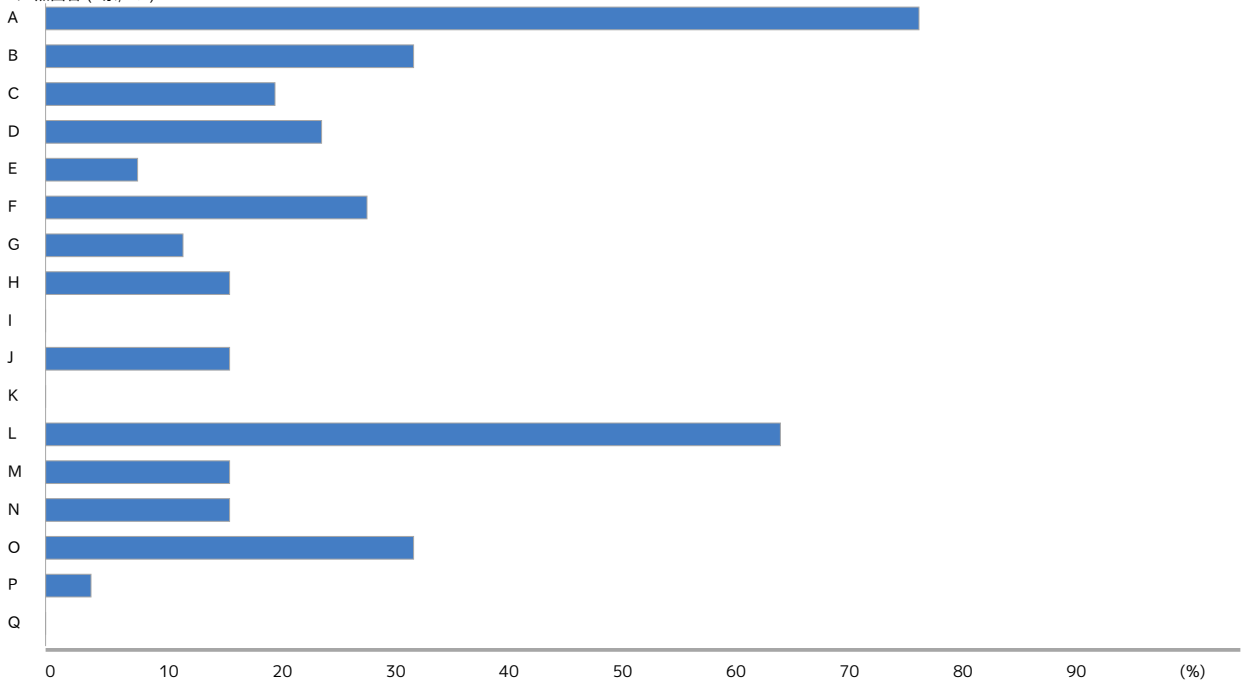
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (16票/61.5%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (5票/19.2%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (1票/3.8%)
- D: 社会人(非就労) (1票/3.8%)
- E: 学生・院生(京都大学) (2票/7.7%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (1票/3.8%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識 (19票/73.1%)
- B: 社会的な常識 (8票/30.8%)
- C: 専門的な知識と技術 (5票/19.2%)
- D: 専門分野の研究能力 (6票/23.1%)
- E: 国際感覚や国際性 (2票/7.7%)
- F: 外国語の能力 (7票/26.9%)
- G: 企画力や創造的思考力 (3票/11.5%)
- H: 実行力 (4票/15.4%)
- I: 協調性やチームワーク (0票/0%)
- J: コミュニケーション能力 (4票/15.4%)
- K: リーダーシップ (0票/0%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (16票/61.5%)
- M: 自己管理能力 (4票/15.4%)
- N: 倫理観 (4票/15.4%)
- O: 自学自習の姿勢 (8票/30.8%)
- P: その他 (1票/3.8%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(8票/30.8%)
- B: それなりに満足している。(16票/61.5%)
- C: どちらとも言えない。(2票/7.7%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)



修了後3年次アンケート（2022年度実施）集計結果

京都大学文学研究科では、修了後3年目の方を対象に、本研究科を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました修了生の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2023年1月10日～1月31日

【実施方法】

連絡先メールアドレスが判明している2019年度修了生（修士61名、博士24名）に依頼状を送信し、京都大学学外アンケートシステムにて回答を依頼した。修士課程修了生からの回答数は12（回答率19.7%、前年度は26.8%）、博士後期課程修了生からの回答数は10（回答率41.7%、前年度は38.5%）で、修士の回答率は昨年度より減少し、依然として低い状態にとどまっているが、博士の回答率は昨年度より上昇した。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）では、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「専門的な知識と技術」「自学自習の姿勢」「一般的な教養や知識」「外国語の能力」が上位を占めた。前年度に比べて「問題発見・解決力」の選択率が最も上位を占めた。回答者の絶対数が少ないため、単年度の結果に拘る必要はないと思われる。今後の動向に注意したい。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計で100%となった。文学研究科修士課程の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

〈博士後期課程〉

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）は、おおむね前年度通りの結果であったが、「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」はともに100%で最上位を占めた。これに続き「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自己管理能力」が選択された。研究者の養成を目的とする博士後期課程の教育の成果が出ていると思われる。また、「自学自習の姿勢」が前年

より減少した（40%、前年度は70%）点が気になる。しかし、回答者の絶対数が少ないため、単年度の結果に拘る必要はないと思われる。今後の動向に注意したい。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計で100%となった。文学研究科修士課程の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

【自由記述欄】

〈修士課程・博士後期課程〉

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。」

研究の自主性と自由を重んじる学風、研究室の教員や他の学生・後輩・先輩との交流の有益さ、授業の充実と質の高さといった文学研究科の特性を高く評価する意見が多く見られた。また精読重視の指導や複数図書館の自由な使用、研究室の自治など、研究環境の充実に関する意見もあった。以下、特徴的な回答を挙げる。

〈修士課程〉

- ・複数種類の図書館が自由に使えたこと。
 - ・高度な授業を受けることそのものが貴重な経験となりました。また、優秀な先輩方の研究に対する姿勢やその発表を間近に見ることで、文学を研究するには非常に情熱と忍耐力がいることが体感として解ったように思います[…]
 - ・研究室の先生、先輩、同級生、後輩と気軽に話ができて、考えを深めることができたこと。対話を根幹とした自学自習の姿勢は、その後の社会人生活で活かせたと思う。
 - ・[...]指導教員の専門とは関わりなく自分の興味関心に基づいて研究をさせてもらえた[...]
 - ・何事も一次資料に当たって確かめようとする意識[...]
 - ・購読/演習系の講義が充実していたこと。
 - ・様々な専攻の授業を(聴講ふくめ)受講できたことは、非常に良かったと感じている[...]
- また、精読を重視した勉学のおかげで、読む力がついたことは非常にためになっている。

〈博士後期課程〉

- ・指導教員にいつも重要なアドバイスをもらえたことと、学生同士の交流が精神的にも学問的にも有益だった[こと]。
- ・教員の干渉が少ないところ 授業の単位認定がゆるく好きなことをしやすいところ
- ・自学自習を重視し、小人数の演習を中心とする学修スタイルのため、自ら問題を発見する力が身に付いた点。

- ・教員の専門性 学生自治（研究室システム）
- ・とにかく講義の質が高く、研究室は研究に励むような、プロフェッショナルな姿勢の持ち主で溢れていました。[…]さらに有能な各国の人材が集まっているため、グローバルな観点から問題を考えることも可能でした。

Q.5「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

前年度は、自主性を尊重する文学研究科の学風のマイナス面を指摘する回答が散見されたのに対し、一定のコースワークの必要性、他の専攻の学生との交流の欠如、共同作業軽視の雰囲気、アカデミックキャリアのサポート不足などについての意見が出され、協力を求める傾向が見られた。教員数不足、ハラスメント問題の指摘もあった。また、経済状況が困難であることのうったえが目立った。以下、特徴的な回答を挙げる。

〈修士課程〉

- ・資金力の不足。TAの給与予算はコマ数をきちんと確保すべき。
- ・1、2年次に、自学自習を進める上でのロールモデルが無かったので、どう過ごすべきかわからないまま手探りだった期間がしんどかった。研究室に入ってから、先輩との距離が近くなり、モチベーションも高まったし、学び方、研究する姿勢などが参考になった。
- ・授業選択の自由度が高かったことは非常に良かったが、一方である程度定まったコースワークが用意されていても学生としては助かったかもしれない。
- ・文学研究科の中で、横のつながりがもっとあればよいと思いました。（他の専攻の方々とお会いする機会がほとんどなかった）

〈博士後期課程〉

- ・院生に利用可能な研究費等（読書会補助等）があればなおよい。
- ・金が足りない
- ・アカデミックキャリアを形成していく上でのキャリア戦略等について、もっと積極的な情報発信があっても良かったと感じた。
- ・ハラスメント軽視
- ・専修の教員数が少ないこと
- ・基本的に個人主義が強く、「協同して何かをする」という意識はあまり強くないように感じます。特に会社や学会では、協同作業が重視されるので、学部時代からそのような雰囲気を体験することが重要だと考えるようになりました。

アンケート名 2022年度_修士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 61

回答者数 12

回答率 19.7

結果 (Q.01) あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

- A: 文献文化学専攻・東洋系 (1票/8.3%)
- B: 文献文化学専攻・西洋系 (4票/33.3%)
- C: 思想文化学専攻 (2票/16.7%)
- D: 歴史文化学専攻 (3票/25%)
- E: 行動文化学専攻 (2票/16.7%)
- F: 現代文化学専攻 (0票/0%)
- G: 国際連携文化越境専攻 (0票/0%)
- H: 無回答 (0票/0%)



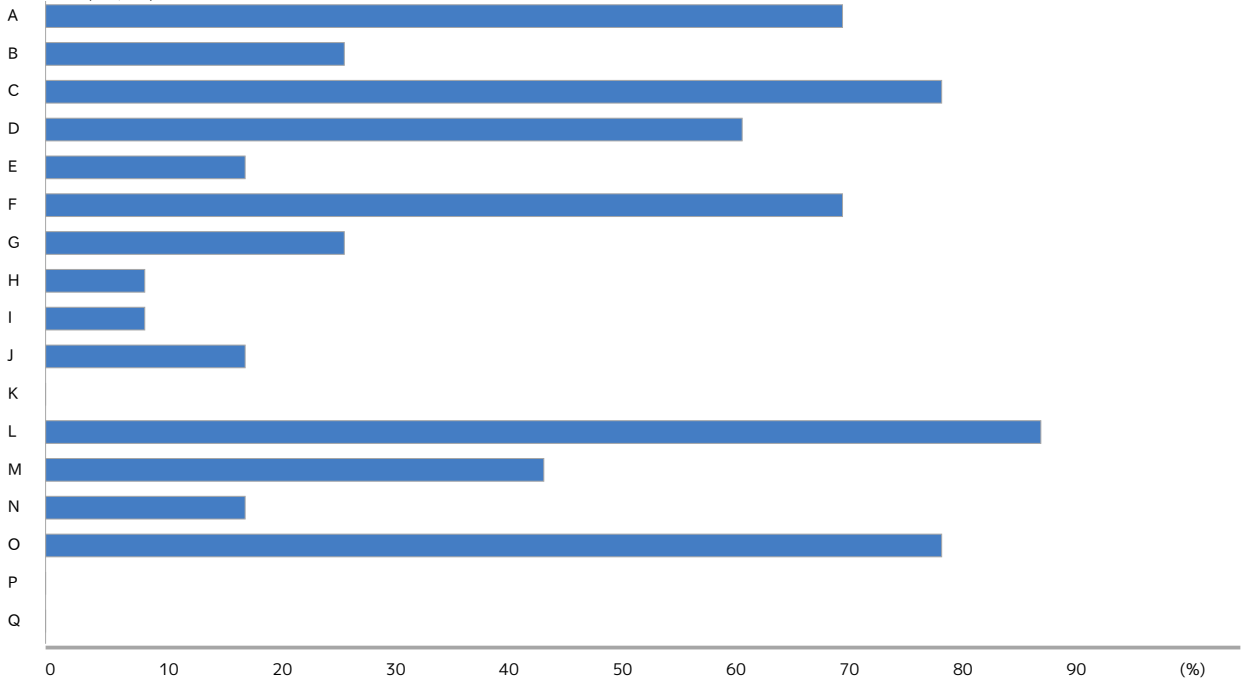
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人（一般企業等で就労） (4票/33.3%)
- B: 社会人（官庁・地方自治体等で就労） (2票/16.7%)
- C: 社会人（教員・司書等の専門職として就労） (2票/16.7%)
- D: 社会人（非就労） (2票/16.7%)
- E: 学生・院生（京都大学） (1票/8.3%)
- F: 学生・院生（他の大学） (1票/8.3%)
- G: 学生・院生（その他の学校） (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

- A: 一般的な教養や知識 (8票/66.7%)
- B: 社会的な常識 (3票/25%)
- C: 専門的な知識と技術 (9票/75%)
- D: 専門分野の研究能力 (7票/58.3%)
- E: 国際感覚や国際性 (2票/16.7%)
- F: 外国語の能力 (8票/66.7%)
- G: 企画力や創造的思考力 (3票/25%)
- H: 実行力 (1票/8.3%)
- I: 協調性やチームワーク (1票/8.3%)
- J: コミュニケーション能力 (2票/16.7%)
- K: リーダーシップ (0票/0%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (10票/83.3%)
- M: 自己管理能力 (5票/41.7%)
- N: 倫理観 (2票/16.7%)
- O: 自学自習の姿勢 (9票/75%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A：十分に満足している。(7票/58.3%)
- B：それなりに満足している。(5票/41.7%)
- C：どちらとも言えない。(0票/0%)
- D：あまり満足していない。(0票/0%)
- E：満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F：無回答(0票/0%)



アンケート名 2022年度_博士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 24

回答者数 10

回答率 41.7

結果 (Q.01) あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

- A: 文献文化学専攻・東洋系 (0票/0%)
- B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/10%)
- C: 思想文化学専攻 (2票/20%)
- D: 歴史文化学専攻 (3票/30%)
- E: 行動文化学専攻 (2票/20%)
- F: 現代文化学専攻 (2票/20%)
- G: 無回答 (0票/0%)



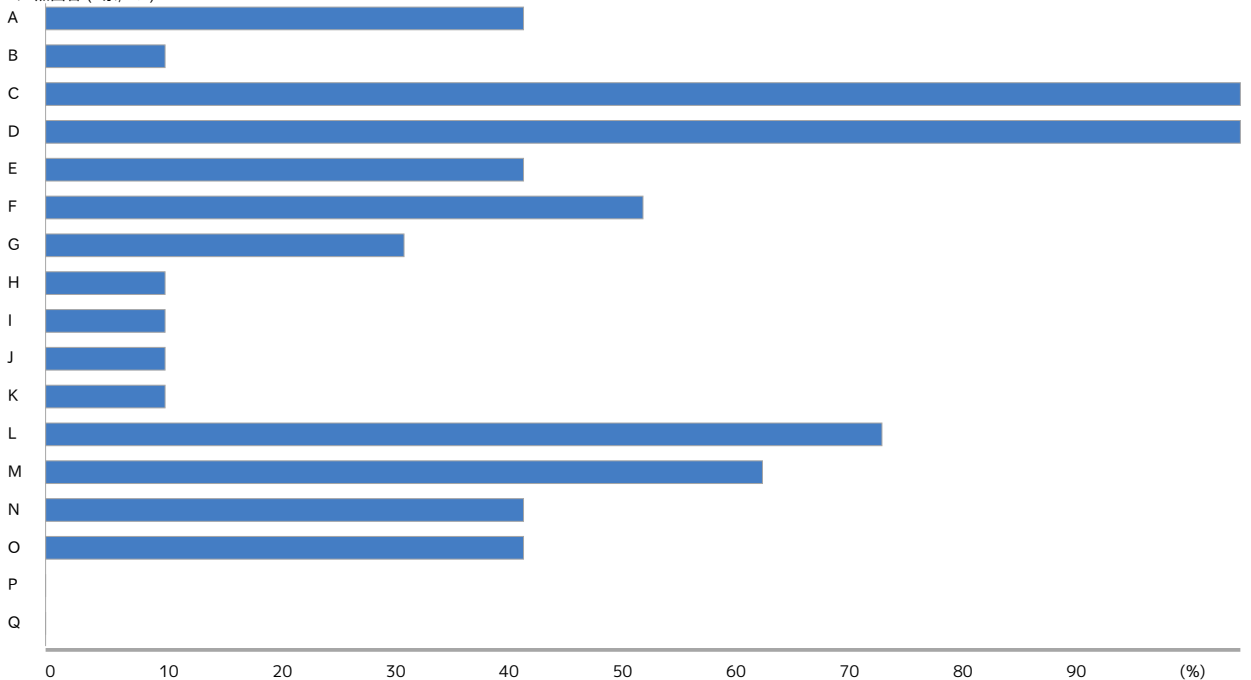
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人（一般企業等で就労） (1票/10%)
- B: 社会人（官庁・地方自治体等で就労） (1票/10%)
- C: 社会人（教員・司書等の専門職として就労） (7票/70%)
- D: 社会人（非就労） (0票/0%)
- E: 学生・院生（京都大学） (1票/10%)
- F: 学生・院生（他の大学） (0票/0%)
- G: 学生・院生（その他の学校） (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

- A: 一般的な教養や知識 (4票/40%)
- B: 社会的な常識 (1票/10%)
- C: 専門的な知識と技術 (10票/100%)
- D: 専門分野の研究能力 (10票/100%)
- E: 国際感覚や国際性 (4票/40%)
- F: 外国語の能力 (5票/50%)
- G: 企画力や創造的思考力 (3票/30%)
- H: 実行力 (1票/10%)
- I: 協調性やチームワーク (1票/10%)
- J: コミュニケーション能力 (1票/10%)
- K: リーダーシップ (1票/10%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (7票/70%)
- M: 自己管理能力 (6票/60%)
- N: 倫理観 (4票/40%)
- O: 自学自習の姿勢 (4票/40%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

●近日公開予定

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(6票/60%)
- B: それなりに満足している。(4票/40%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)

